

香取市都市計画マスタープラン 地域別懇談会(第1回 栗源区) 意見概要	
日 時	平成20年10月19日(日) 10時00分~11時30分
場 所	栗源公民館
参加人数	14名

◆「都市計画とは等」に関する質疑応答	
市民	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、栗源区は都市計画区域外とのことであるが、今後、市街化調整区域となるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・市街化調整区域とは、都市計画の制度の線引きという制度であります。もともと、佐原・小見川の都市計画には、線引き制度が無く、市街化区域、市街化調整区域はありません。 ・都市計画区域については、香取市には、佐原区、小見川区は全域が都市計画区域となっており、栗源区、山田区は全域都市計画区域外となっています。それがまちづくりの上でどうなのかということ、これから考えていきます。隣接市町村においても都市計画区域の指定の動きがあり、栗源区、山田区だけが都市計画区域外になるということも考えられ、どういう問題が起こるか等を考えて、これから議論して頂きたい。 ・今回のマスタープランで、栗源区は将来どうあったら良いかということを検討しますが、その時に都市計画の制度が必要なのか、効果があるのか、無くてもいいのかということを検討します。現段階では、都市計画区域に指定するかどうかということはありません。全国的には、市の中に都市計画区域と区域外がある市、町もあります。それを踏まえて、将来の姿を検討し、都市計画区域についても考えていきます。
市民	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりを考えると、都市の中心機能はどうするのか、各区はどのような役割なのかをきちっとしておく必要がある。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・香取総合計画の前期基本計画に地域整備の方針があり、その中で市全域を、経済・文化交流都市ゾーン、ふるさと交流・定住ゾーン、水と緑の環境保全・活用ゾーンの3つのゾーンにわけて整理しています。 ・これは、大まかな香取市の方向性を、地域ごとにゾーン区分したものであります。これを基本に、これからの都市のあり方、栗源区でのまちづくりのあり方を、検討していきます。
市民	<ul style="list-style-type: none"> ・圏央道の整備計画などを上手く利用しながら、新しい香取市を考えていくことが必要、この道路を利用したまちづくりを考えて欲しい。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ご意見にあったとおり、市全体の都市をどうするかということを考えていきます。また、各地域の特色がありますが、一つの市として連携、分担し合うということを行い、各地域の特徴ごとに発展するという方向性が必要と考えています。 ・現在の社会経済状況を考慮しながら、地域にある道路や施設、或いはインターチェンジなどを、どう活かして地域づくりをするのかが、今後のまちづくりに必要なことと考えています。
◆「市・区の現況と課題等」に関する意見交換	
市民	<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画マスタープランでは、病院についてはふれないのか。安心安全なまちづくりには、医療のこれからのあり方ということは必要だと思う。 ・路線バスの利用者は、減少傾向にあるとのことだが、栗源区を通る路線（JRバス）の廃止の噂が出ている。都市の活動や地域の生活には路線バスは必要だが、市としてはどのように考えているか。 ・また、佐原駅の改修ではかなりの費用がかかると聞いているが、利用者の減っている駅をそこまでして改修する必要はあるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画マスタープランは、総合計画を踏まえたまちづくりの基本方針であり、地域医療は都市計画の範囲ではないが、なんらかの形で計画に反映させるということは可能かと考えています。 ・バス路線については、現在、民間事業者が採算性を理由に撤退したいという申し入れをされています。現在、事業者側に撤退の撤回をお願いしています。最終的に廃止ということであれば、現在、市内循環バス路線の見直し検討を行っている中で、その中で検討することになります。これの対応策が明らかになった段階で報告できると思います。また、地域をネットワークで結ぶ交通手段の確保は、市の責務だと考えています。 ・佐原駅の改修は、現在、事業費の圧縮について交渉しています。利用者が減少している駅の改修は、様々な考え方ありますが、建設部の立場では、佐原駅駅舎の改修は、衰退した佐原の市街地を活性化する1つの核であり、観光、交流の活性化という施策に合っているということで、事業を進めています。費用は、更に財政的に検討を進めて、より良いものをより安く作っていきたいと考えています。 ・都市計画マスタープランは都市計画の基本的な方針で、病院をどうするかなど、地域医療や民間事業をどうするかは、都市計画として直接手を下すことは難しい。ただし、都市計画マスタープランでは、地域の生活に何が重要かということ踏まえ、地域の将来のあり方を整理するので、その過程で、地域でどのようなことが必要になっているかを整理できればと思います。また、具体的に、誰が、どういう時期に、何を、整備するのかということは、都市計画マスタープランを超える話になるので、庁内の各課と協議し、このようなことが問題になっていることを担当する部署に伝えていきます。

市民	<ul style="list-style-type: none"> ・圏央道の整備により、栗源区の交通は大きく変化すると思うので、その将来的な変化を見据えて交通に関しては考えて欲しい。 ・栗源、山田には高校が無く、何か、専門校でも良いので、栗源区に高校ができないか考えて欲しい。 ・大関地区については工業以外にも考えられると思う。つまり、圏央道など交通が便利になってくるので、その辺を考えて検討して欲しい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・栗源区を東西に通る成田小見川鹿島港線がありますが、この路線は成田空港と鹿島臨海工業地帯を結ぶ路線で、この路線と圏央道を連絡するインターチェンジの設置を要望しています。それが実現すれば、関東全域における栗源区の役割、ポテンシャルは非常に高くなります。このような将来的な動向を踏まえて検討を進めたいです。 ・高校は、少子化のため、統合などの問題があります。高校、大学等を誘致し、地域の活性化に結びつけるという考え方は、必要ではありませんが、非常に厳しいと考えられます。ただ、例えば、農業関係や空港関係などの新しい専門学校などを、機会があれば積極的に取り組んでいく必要は市としても考えています。 ・大関地区は、ポテンシャルも高く、できれば環境に負荷の無い、人を雇用するような工業を誘致したいが、工業にこだわらず、物流拠点やそういったもので有効な土地利用をはかることも検討したいです。
市民	<ul style="list-style-type: none"> ・栗源区には良好な自然環境が残っており、ロハス構想のような自然環境を活用した活性化も考えられると思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・以前、小見川区でロハス自然村ということを検討していました。香取市は農地山林の多い、首都圏における田園水郷都市だと言われています。栗源区にある大きな自然空間を有効活用して都市農村交流が出来るという考え方は、非常に可能性があり、今後も研究していく必要はあると思います。 この都市計画マスタープランでも土地利用とか、そういう面で、ある程度位置づけが出来ればと考えています。ただし、行政が整備することは難しい時代であり、民間活力を活用して進められればと考えています。
市民	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、高速バスが通っているが、貴重な交通手段で、栗源区の将来の発展につながる可能性を持つ交通手段でもあるので、公共交通の中でふれておいて欲しい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ご意見のとおり、広域的な連絡手段であり、都心を連絡する高速バスについては整理したいです。
◆閉会	

